

衣食住生活

研究・活動レポート

第 6 号

目 次

「活動報告」

ー衣生活部門ー

生活科学研究会活動

～ tomoni つながる和綿プロジェクト ～ への参加	3
「ECO+ものづくりプロジェクト」の活動報告	5
第8回 伝統文化裁縫コンテスト	7
第30回 ア・ミューズ岐阜 ファッションショー参加	8

ー食生活部門ー

「EAT&スマイルプロジェクト#岐女大」活動報告

ー健康・医療分野、子ども・食育分野、食クリエイイト分野ー	13
第13回 高校生朝ごはんコンテスト	17
災害時に向けた食の備えを促すためのレシピ提案	19
オープンキャンパスにおける小麦・卵・乳を含まない弁当の提供	21

ー住生活部門ー

山県市佐賀空き家リノベーションプロジェクト	25
実習棟リノベーション工事	28
第12回わたしの住まいのリフォーム・デザイン案コンテスト2020	30

衣 生 活 研 究 部 門

〔活動報告〕

生活科学研究会活動

～ tomoni つながる和綿プロジェクト ～ への参加 3

宮本 教雄

「ECO+ものづくりプロジェクト」の活動報告 5

齋藤 益美

第8回 伝統文化裁縫コンテスト 7

藤木 節子・三輪 聖子

齋藤 益美・児玉 愛子

第30回 ア・ミューズ岐阜 ファッションショー参加 8

藤木 節子

◆目的

「tomoni つながる和綿プロジェクト」とは、「日本の風土と日本人の肌に一番なじむ繊維である和綿を育て、糸にし、布にしていく過程の中で、アート、デザイン、ビジネス、福祉、農業の分野をつなぎ、新たな出会いと仕事が生まれる場づくりを目指しているプロジェクト」である。岐阜県ではぎふ清流プラザの公益財団法人岐阜県教育文化財団に事務局を置き、5年前からこのプロジェクトを推進している。2020年12月には「第6回 tomoni つながる和綿プロジェクト展 ～未来への実り、つながるカタチ～」を開催して、和綿から製作した様々な繊維製品を紹介するとともに、無農薬有機栽培の基準に沿った和綿栽培農家や和綿栽培グループを募集していた。

この和綿無農薬有機栽培運動は、日本全国で賛同者が活動しており、熊本県の和綿の里づくり会、鳥取県の境港市農業公社、栃木県の渡良瀬エコビレッジなどがある。

一方、かつては日常生活圏内にあった、綿花畑や養蚕用桑畑は、今ではほとんど目にすることはできなくなってしまった。学生たちは着用している衣服のほとんどが綿製品なのに、本物の綿植物や綿花を見たことがないという。米綿の綿花を渡して種子毛の中の種子に触れさせた時には、目を丸くして驚いていた。生産現場を見たことがないと、綿繊維と綿糸と綿布が繋がらないのかも知れない。

そこで、生活科学研究会では、コロナ禍で従来の対外的活動がほとんど中止になったこともあり、和綿の無農薬有機栽培を学内で行うことにした。種子はプロジェクト展を見学した時にいただいた。実際の綿植物の生育、きれいな本来の綿花、育った綿花の開裂を目にすることで、植物繊維の知識を深めるとともに、収穫した綿花をプロジェクトに寄付し、社会貢献の一端を担うことにした。

◆活動方法

コロナ禍で大学が閉鎖中の5月上旬、学内の倉庫に眠っていた大型プランター5個を借りた。6号館北側に壊れかけた温室があり、水道栓も引かれていたので、そこで栽培することにした。5月中旬プロジェクトが規定する栽培基準にしたがい、指定の有機培養土を入れ、種子蒔きをした。卒業研究生の一人が農林高校園芸科出身で、興味を持って作業をこなしてくれてさすがであった。1週間後ほとんどの種子が発芽した。プランター1個につき、3本ぐらいが適当ということなので、5月26日に間引きを行った。学生たちは、もったいない、可哀そうと言いながら、不要の双葉を引き抜いていた。

6月になってようやく大学閉鎖が解け、学生たちがキャンパスに戻ってきた。生活科学研究会の役員会を開き、令和2年度の活動概要を提案し、プロジェクトへの参加を審議した。そして、遅れていた総会を7月16日に開催し、令和2年度の活動にプロジェクトへの参加を提案して承認を得た。

7月には、有機肥料の追肥、培養土の補充、支柱立てを行った。

8月中旬に最初の本来の綿花が開花した。クリーム色の花びらの中央は紅色という、非常に特徴の

ある花を皆に見せたいのに、あいにく夏休み中で、研究会役員以外には見せることができなかった。この頃は葉巻虫の駆除や毎日の水やりが大変であった。

9月に入って摘芯を行った。落花後にできていた小さいコットンボールは、日に日に生長を続け、中旬には大きく膨らんでいる緑のコットンボールを確認した。

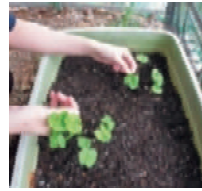
10月下旬に入り、最初のコットンボールが開裂し、白い綿繊維が顔を出した。感激であった。最初の計画通り、11月まで収穫を伸ばして、さぎ草祭にプランターごと展示し、研究会活動を紹介する予定であった。展示が完成したその直後、残念ながら、コロナ感染症の影響で、さぎ草祭は中止になってしまった。

◆活動結果・考察

生活科学研究会会員の積極的な活動によって、綿植物が種子から順調に生育していく過程をじっくり観察することができた。見たことのない綿の開花、落花、コットンボールの生育と開裂を目の当たりにし、自然の営みに感激した学生が多かった。自分達が着用している綿製品の基になる綿繊維が、長い生長期間を経て収穫されることを初めて知り、衣服をこれまでよりも大切にしようと思ったはずである。

収穫した綿花はわずかではあったが、プロジェクト事務局に寄付することができ、微力ながら和綿プロジェクト運動に貢献することができた。

綿花は紡績されて糸に、製織されて布になるが、その過程も知る機会があればと思う。繊維から布になる過程も、大変な技術と機械力と手間が必要なることを知ってほしいし、さらに絹や羊毛の天然動物繊維についても、興味を持ってほしいと考える。



間引き



本来の綿花



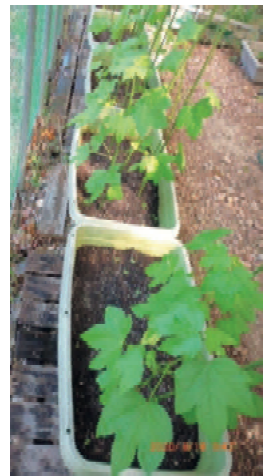
支柱立て



コットンボール



コットンボールの開裂



綿植物の生長



さぎ草祭での展示(この後中止) (令和2年11月5日)

◆活動の目的

生活科学専攻の全学生を構成員として「ECO+ものづくりプロジェクト」の活動を行っている。環境に配慮したものづくりを中心にグループ活動、地域の方々と接するイベント参加やワークショップの企画・運営を行っている。幅広い年齢層の人々や地域社会と関わる機会を増やしコミュニケーション力を高めるだけでなく、グループでの商品企画・製作、イベントの企画・運営を通して仲間と協力し成し遂げる経験ができる機会となっている。学生一人ひとりが生活者として、社会人としての資質を向上させることを目的として活動している。また、本専攻は中学校・高等学校の家庭科教員を目指す学生が多く、これらの実践的な活動は、被服製作の技能の習得だけでなく、教育力の向上につながると考えられる。

◆活動方法

運営委員が年間の目標・計画をたて、それに基づき1～4年生の縦割りで構成された3グループがリーダーを中心に活動している。運営委員会、リーダー会を開催し、活動の計画と周知、グループ作品の開発・検討、グループ活動の問題点、イベント開催等の話し合いを行い、各グループがそれぞれのテーマと目標を持って活動できることをめざしている。

毎年行ってきた商品販売、ものづくり体験のワークショップ、親子のものづくり体験などのイベントがコロナ感染拡大により縮小され、限られた中での活動となっているが、機会をみつけ地域の方々と関わり、環境に配慮した生活とものづくりの楽しさを伝えている。

◆活動報告・考察

令和3年度はコロナ禍ではあったが4月から対面授業が行われ、新入生も交えてスムーズに活動を始めることができた。3・4月は運営委員会・リーダー会を行い、活動目標や計画を検討した。昨年同様、ワークショップや展示、各地のクラフト展や手づくり市が中止になり、外部と関わる機会がなくなってしまったが、SNS やブログの更新を増やし、毎週の活動を発信している。

7月には Beauty Café マルシェ(関・龍泰寺)に出店することができ、グループの商品の販売状況や、購入者から多くの意見を聞き、グループの活動と商品企画の見直しにつなげることができた。

10月には例年より規模を縮小したものの岐阜市立図書館分館にて『処分される傘のアップサイクルにチャレンジ!!』～忘れ物の傘、骨が折れた傘、穴があいた傘をおしゃれにアップサイクルしました～のテーマで展示を行った。身近な問題に目を向け、調査・研究に取り組み、細かく困難な製作も夏



Beauty Café マルシェ出店の様子

季休暇中に運営のメンバーを中心にすすめることができた。

11月はさぎ草祭(大学祭)で販売とワークショップを行うことになっており、今回はワークショップを充実させ幅広い年齢層の人に手作りの楽しさを伝え、環境に配慮した身近なアイデアを伝えていきたいと考えている。また、柳ヶ瀬商店街活性化のイベント「柳ヶ瀬ハンドメイドコンテスト」に合わせて、ワークショップと手づくり小物販売を行う予定である。中高生はじめ、一般の方も簡単なものづくりを体験し、楽しさを感じ興味を持ってもらえるよう考えている。学生一人ひとりが大学の授業だけでは得られない時間を楽しみ、自分の作ったものを買ってもらえるうれしさや責任を感じられることを期待している。ワークショップでは自分のできることを人に伝えることの難しさと楽しさを知り、技能の習得につながるものと考えている。

2・3月にはコロナの感染状況次第ではあるが、昨年実施を見送ったワークショップ「親子の手づくり企画」を計画している。

ECO+ものづくりプロジェクトを通して、1年生は早い段階から先輩たちと関わりを持ち、学生生活にスムーズに馴染んでいく様子がうかがえる。同学年でなじめない学生も、3・4年生がうまく関わり徐々にその学生の良さを引き出してくれることも多く、孤立や退学の減少につながっている。



展示「処分される傘のアップサイクルにチャレンジ」

令和3年度活動状況および予定

月	活動状況	運営・リーダー会
3・4	運営委員・リーダー・グループ決定	運営委員会・リーダー会
4・5	1年生歓迎会 1年生技術指導(ECO フラワー・裏付きトートバッグ)	材料準備
	グループ製作商品の検討会	リーダー会・運営委員会
5・6・7	グループ活動(商品企画・製作)	
7	Beauty Café マルシェ出店(販売・ワークショップ)	運営委員会
7	懇親会(カレーパーティー)	リーダー会
8・9	市立図書館展示のための調査・製作・準備(運営)	運営委員会
9・10・11	グループ活動(さぎ草祭出店用商品製作)	
10	岐阜市立図書館分館展示(処分される傘のアップサイクルにチャレンジ)	リーダー会
11	さぎ草祭模擬店出店(販売・ワークショップ)・反省会	
11	柳ヶ瀬ハンドメイドコンテストに合わせ出店(販売・ワークショップ)	運営委員会
12	岐阜「せんい祭り」出店(販売・ワークショップ)	
2・3	親子の手づくり企画(3年生担当・2回開催予定)	運営委員会

第8回 伝統文化裁縫コンテスト

藤木節子、三輪聖子、齋藤益美、児玉愛子

◆目的

平成 25 年度より中学・高校生を対象に、伝統文化裁縫コンテストを実施している。今年で 8 回目を迎えることになる。中学・高校生が日本の伝統文化に触れ、布を用いて作品を製作することを通して、製作に関する基礎的・基本的な知識および技能を身に付けるとともに、物作りの楽しさを実感し、生活を豊かにするために活用する能力と創造力を育てることをねらいとしてコンテストを実施する。

◆活動方法

テーマを「戦国武将～戦いの世に生きる～」とし、『戦国時代、数々の英雄たちが生まれ消えていきました。戦いに勝つ強さとは何だったのでしょうか。戦国を生き抜いた武将にスポットを当て、あなたが戦国武将に持つイメージをファッションで表現しましょう。』と呼びかけた。

作品は衣装を製作する衣服作品部門と、高度な技術がなくてもできるアイデア作品部門とに分かれており、家政系以外の高校生や中学生が興味を持ち応募することも期待している。

◆活動結果・考察

新型コロナの関係で 4 月当初より学校が閉鎖状態となり、中高生への連絡が遅れたり十分な指導ができないと判断されて、応募数の減少がみられたが、衣服作品部門の 1 次審査応募作品数は 33 点、アイデア作品部門は 48 点であった。

○衣服作品部門の優秀作品

最優秀賞



大坪 可奈

岐阜県立岐阜城北高等学校

優秀賞



山岸 遥

愛知県立一宮高等学校

大学賞



郡山 日菜

岐阜県立東濃実業高等学校



○アイデア作品部門の優秀作品

最優秀賞

柘植 わかな（多治見西高等学校）



第30回 ア・ミューズ岐阜 ファッションショー参加

藤木節子

◆目的

ア・ミューズ岐阜では、新たな産学プロジェクトの芽になればと岐阜アパレルとファッション専科のある学校とのファッション連携としての企画にファッションショーがある。未来のデザイナー・学生応援プロジェクトとして、作品製作を行いステージ発表を通して新たなステップを目的としている。

本専攻では洋裁・和裁の技能の向上をめざしており、学修成果発表の機会と捉えて「第30回ア・ミューズ岐阜」(一般社団法人 岐阜ファッション産業連合会主催 岐阜県、岐阜市後援)「スチューデント・プレビューショー」に平成 30 年度に引き続き 2 回目の参加を決めた。

◆活動方法

「第30回ア・ミューズ岐阜」が令和年 3 年 3 月 1 日～5 日の間JR岐阜駅前の繊維問屋街などで開催された。令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響で中止になり、今回は 2 年ぶりの開催となった。感染対策として会場でのアパレル商品展示は見送られ、無観客のファッションショーをオンライン配信するなど新たな形で岐阜アパレルの魅力を発信することとなった。

テーマは『Fashion is Passion(ファッション イズ パッション)』で、連合会の趣旨は、「毎日のスタートは着ることから始まる。どんな出来事が起こるか、一人一人に寄り添う大事なモノだから、私たちはたくさんの愛情で作っている。そんなファッションを大切に着て、私たちの長い年月をかけて培われた情熱を多くの方に肌で感じてほしいと願い、『ファッションで日本を元気に！』・・・せんのまち岐阜から発信する。」である。

30 年という節目の年、岐阜のファッションの底力を見せたいという委員長始めアパレルメーカーの方々の熱い思いを感じながら挑戦することとした。ショーへの参加希望者を募り、2 年から 4 年の 18 名の学生が参加することになった。

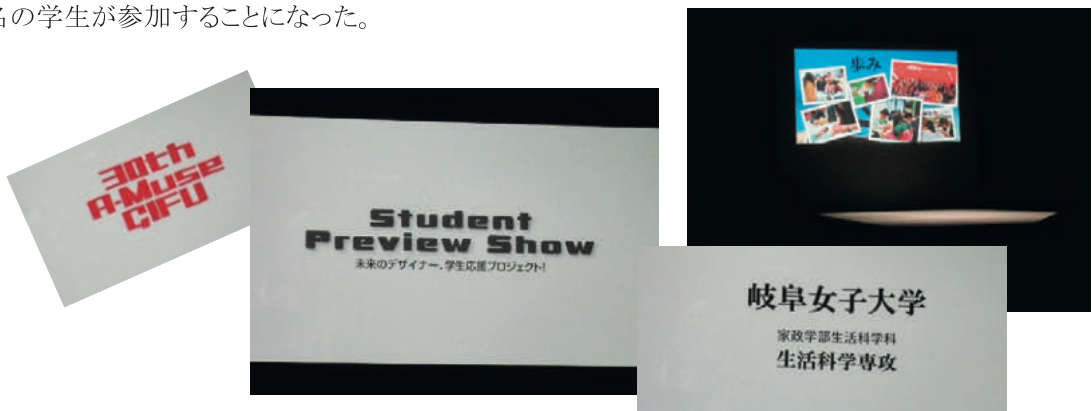


写真1 じゅうろくプラザ ア・ミューズ岐阜 スチューデントプレビューのステージスクリーン

◆活動結果・考察

1. 令和 3 年 3 月 1 日(月)会場はじゅうろくプラザ2F 特設ステージ(岐阜市文化産業交流センター 岐阜市橋本町1-10-11)9 時会場入り、リハーサル後ランスルー(通しリハ)15 時、本

番は 18 時スタート、オープニング(柴橋岐阜市長等出演)18 時 10 分岐阜女子大学、20 分岐阜市立岐阜女子短期大学、35 分～合同フィナーレの流れで進んだ。ファッションショーは無観客で開催し、YouTube チャンネル「ギブまるけ」で 3 月中映像配信された。

2. 今回は「歩み」をテーマとし、令和初のショーと言うことで、「時代の歩み」と「学修の歩み」を見て頂きたいとの趣旨で作品製作を行った。

二部構成とし、第一部の「戦国に生きた人々」に 3 年朝日あみ、角野はづき、西出汐里、木村亜希子、中原実紅、笠原あかりの 6 名がそれぞれに徳川家康、斎藤道三、豊臣秀吉、濃姫、明智熙子、明智光秀をイメージデザインした。4 年生の梅田咲也佳と鈴木歩果は共に明智光秀をイメージし帯地を効果的に使った衣装を製作した。初めてのランウェイを緊張しながら歩く 3 年生に対して、2 年前にショーに参加した二人は、上級生らしく堂々とモデルを務めた。



写真 2 「戦国に生きた人々」に出演した 8 名 集合写真とステージの様子

第二部は 4 パートに分かれイメージテーマに沿って作品を仕上げた。「Apple」カジュアル系は 2 年長谷川美佳、4 年丹野寛代の二人、「Elegance」は 3 年近藤佳七と 4 年池田鈴音の二人はウール地と共に同じチェック生地を使って、カジュアル且つエレガントに仕上げた。

「Night Makeover」3 年名倉茜と 4 年沼田純里のドレスは、変身にポイントをおいた女性らしいシルエットとした。「春風」(はるかぜ)は 3 年の清水七菜、飯野ほのか、池戸恵、秋田富稀の 4 名でブルー系と淡いアイボリーカラーでまとめ、優雅でフェミニンな装いを軽やかに仕上げた作品である。



写真 3 「Apple」と「Elegance」に出演した 4 名とステージの様子



写真4 「Night Makeover」と「春風」に出演した6名とステージの様子

第一部の作品は、和服造形実習Ⅳの授業課題として製作したが、第二部の作品は、有志によるグループ編成でイメージや素材の共通性を捉えながら、デザインに悩み挑戦した。生地選び・型紙作成、製作と限られた時間を有効に使い取り組んだ後、ステージをイメージしながらウォーキング練習を行った。当日のショーステージは、音響・照明はプロが担当されリハーサルではプロモデルのステージを見学し、本物のランウェイで、学生は緊張しながらも自分の衣装の美しさが披露できるポーズを考えてモデリングに挑んだ。ショー終了後は、配信された映像を見た家族や友人たちからは若さ溢れる感性豊かな衣装や初々しいモデルぶりが好評であった。参加校は、岐阜女子大学、岐阜市立女子短期大学の2校で前回より少なく残念であった。

－考察－

本専攻ではショーには個人(有志)参加となる。結果、意欲のある学生がチャレンジして、高みを目指す学生はより充実した時間を経験することになる。自主的な活動により、計画的に取り組む事や自己表現の重要性を体感したと思われる。また、学年を超えたチームワークの必要性やショー構成力・表現力を学ぶ最良の機会であったと考える。今後もこのような学外のイベント企画に参加の機会が頂けたなら積極的に参加することに意義は深い。岐阜ファッション産業連合会による学生支援に感謝するとともに、貴重な体験を学生生活や将来家庭科教員やファッションに関わる職業へと繋げて更に成長して欲しいと願う。



写真5 フィナーレ後のステージの様子と、ショー参加の全員集合写真

食 生 活 研 究 部 門

〔活動報告〕

「EAT&スマイルプロジェクト#岐女大」活動報告

ー健康・医療分野、子ども・食育分野、食クリエイイト分野ー…………… 13

大場 君枝・藤田 昌子
臼井 宗一・水野 幸子
土屋ひろ子

第13回 高校生朝ごはんコンテスト…………… 17

藤田 昌子・伊藤 育子
和田 玲子・大場 君枝
中村 日南・外山 菜月
海野 由夏

災害時に向けた食の備えを促すためのレシピ提案…………… 19

大場 君枝・丹羽 桜子
後藤 美希・下地 星羅
玉城 暎野・春永 凜

オープンキャンパスにおける小麦・卵・乳を含まない弁当の提供…………… 21

大場 君枝・栗本 南
酒井 萌友・久湊奈菜花
屋部 瞳歩・宇留野汐里
大石さつき・佐藤 朱里
御子柴音羽

「EAT&スマイルプロジェクト#岐女大」活動報告

—健康・医療分野、子ども・食育分野、食クリエイティブ分野—

大場君枝、藤田昌子、臼井宗一、水野幸子、土屋ひろ子

◆目的

2021 年度から学生主導で「EAT&スマイルプロジェクト#岐女大」に取り組んでいる。EAT は、E (enjoy)、A (act for health)、T (trend, traditional) の略語であり、食を楽しみ、伝統的な食文化や新しい情報を取り入れ、健康増進のための活動をしていこうという願いを込めている。地域・食・健康の架け橋となる管理栄養士を目指すことをねらいとした活動である。

「健康・医療分野」「子ども・食育分野」「食クリエイティブ分野」の 3 分野に分かれ、1～3 年までの学生が将来の進路を踏まえ、興味のある分野を選択し活動を行った。

◆活動方法

健康・医療分野では、「食事と運動から健康なカラダへ ～自分のカラダと向き合おう～」をテーマとして活動した。学園祭(さぎ草祭)11 月 6、7 日の当日は、【朝ごはんを改善しよう】【やせを改善しよう】【運動習慣を身につけよう】【おいしく減塩しよう】を題材としたパネル発表を行った。また、握力測定や長座体前屈などを実際に体験するブースも作った。来てくださった方々の日々の食事・運動について見直すきっかけとなるような発表を目指した。

子ども・食育分野では、「目指せ！食べ物マスター ～広がる食の世界～」をテーマに活動した。さぎ草祭当日は、食育の授業(おやつ、お米)と食育クイズラリー(郷土料理、行事食、砂糖、野菜)を行った。大学の栄養教育論実習では、食の指導について年代に合わせた指導方法や楽しく学べる工夫なども学んでいる。それらを活かして、食育の授業やクイズラリーを企画した。「できた！知れた！」という体験を通して、参加していただいた皆さんに食に興味を持ってもらえるような内容となるよう何度も模擬授業を行って改善した。

食クリエイティブ分野は、「岐阜に集結～ふるさとへの想い～」をテーマに「ミニ懐石」と「商品開発」のグループに分かれ活動を行った。岐阜女子大学ならではの“全国から学生が集まる”という特色を活かし、大学内や地域の食材を使用して、またそれぞれのふるさとの味を調和させながら、料理や商品を提供した。食べていただいた方を喜ばせたいという思いを大切に。ミニ懐石は、学生たちの出身県の郷土食を盛り込んだ懐石料理を提供した。4 月から、大学で採れる食材(筍、八重桜、無花果、栗、金木犀など)の収穫や保存を始め、数回にわたる試作を重ねた。商品開発は、ジャムとスイーツの製造、提供を行った。ジャム班は、大学内でとれた梅とブルーベリーを使用し、何回もの試作を経て 55 個を完成させた。スイーツ班は、4 グループに分かれ考案した。学内コンテスト(プレゼンと試食評価)で一商品・「ギフ・チャム・カップ」(岐阜県産のさつまいもを使用したカップケーキ)を選び、さぎ草祭で販売した。

◆活動結果・考察

健康・医療分野では、「朝食」「やせ」「減塩」「運動」というテーマでパネル発表を行った。また、握力測定や長座体前屈測定の体験も行った。【朝ごはんを改善しよう】では、本学学生の朝食欠食の現状から、「簡単に作れる朝食」や「バランスのとれた朝食」を考え欠食日数を減らす取り組みをまとめ発表した。【やせを改善しよう】では、普通体重である人が「やせるため」にエネルギーを気にしている点に着目し、適正なエネルギー量を知り、健康な体作りを目指すことについて発表した。【運動習慣を身につけよう】では、運動不足を感じている学生が、短時間で毎日取り組むことのできるトレーニングを考え実行した記録をまとめ、「毎日運動を続けることの大切さ」を発表した。【おいしく減塩しよう】では、和食においては、調味料の使用が多く食塩摂取量の目標量を超えやすい問題点があるため、家庭で気軽にできる「だし」を使用した味噌汁の減塩について研究し発表した。

来場者へのアンケート結果から、10代の参加者の35%の人が、40～50代の参加者の26%の人が「減塩」に興味を示しており、予想に反して若者が減塩に興味があることが分かった。

来年度の活動では、今年度の研究結果を基に、より深く追求したパネル発表を目指したい。また、コロナ収束がみられれば、「だしの試飲」などの体験ブースも増やしていきたい。

(健康・医療分野 リーダー 家政学部 健康栄養学科 3年 村松 陽実)



図1.健康・医療分野：「やせを改善しよう」と「おいしく減塩しよう」の発表の様子



図2.来場者が長座体前屈測定を体験している様子と担当学生

子ども・食育分野では、「楽しく学ぼう！ミニ授業」、「食育クイズラリー」を行い、2 日間で、のべ 260 人と小さい子どもから大人の方まで幅広い年代の方々の参加があった。

「食に興味をもってほしい」という思いのもと、「どんな工夫をしたら楽しく学んでもらえるか」を考え、活動した。手遊び歌や実験など体を使った学びを取り入れたり、紙粘土で作った食品模型や手書きのイラストなど視覚的に分かりやすい媒体にしたり、各班、様々な工夫を凝らした。

クイズラリー、授業への参加者からは、「地元のことと他県のこと、両方知れてよかった」、「エネルギーの勉強が楽しくできた！これから買い物をする時参考にしたい」、「普段なんとなく食べていたおやつエネルギーがとても高いことに驚いた」という感想があった。また、砂糖についてクイズラリーを担当した学生からは、「子どもたちの反応に対してもう少しリアクションできたらよかった」、おやつについて授業を担当した学生からは、「保護者の方から、子どものおやつの相談をいただき、保護者に向けた働きかけや相談にのることも必要であると気づいた」との声があった。

本活動を通して、参加者の反応や言葉をいただくことができ、授業だけでは実感できなかった食のおもしろさを伝える喜びや難しさを味わうことができた。今回見つけた多くの課題を、今後の大学生活で改善していきたい。来年度は、さらに楽しんでいただけるよう今回の反省を後輩へ伝えていきたい。

(子ども・食育分野 リーダー 家政学部 健康栄養学科 3年 小堀 まりの)



図3.子ども・食育分野：中高生および小学校高学年おやつについての授業の様子

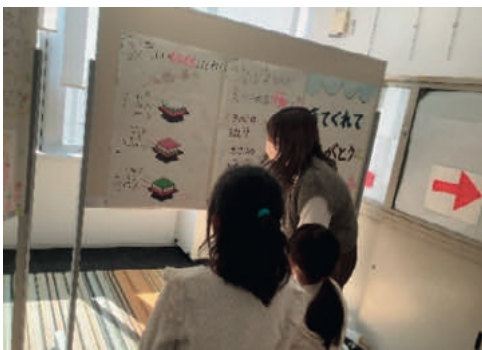


図4.子ども・食育分野：行事食、やさいについてのクイズラリーの様子

食クリエイト分野では、さぎ草祭でミニ懷石料理の提供と、商品(ジャム・スイーツ)の販売を行った。

「ミニ懷石」では、ミニ懷石料理の提供、活動内容を紹介するパネル展示を行った。ミニ懷石料理は、毎年楽しみにしてくださっているファンの方も多し。食べ終わったお客さまからは「本当に美味しかったよ」や「ご馳走様でした!」、「幸せな気持ちになれた」などお褒めの言葉をたくさんいただくことができた。満足感と達成感は大きかった。

「商品開発」では、大学祭であるさぎ草祭でジャムとカップケーキを販売した。11月 6 日(土)に販売したジャムは、限定 55 個であったこともあり、開始 10 分で完売した。すぐに完売したため、買えなかった事を嘆くお客さんの声を聴き心苦しかった。7 日(日)のカップケーキは前日の反省を踏まえ、より多くの方を買っていただけるように個数制限を設け、3 部に分けて販売した。時間前から並んでくださる方がとても多く、こちらもあっという間に完売した。今後は、来年度の活動に繋げられるよう、これまでの活動の振り返りを行うこととしている。

(食クリエイト分野 リーダー 家政学部 健康栄養学科 3年 佐藤 あかり)



図5.食クリエイト分野：ミニ懷石提供の様子と担当学生



図6.食クリエイト分野：商品開発「ギフ・チャム・カップ」作成の様子と担当学生

第 13 回 高校生朝ごはんコンテスト

藤田昌子、伊藤育子、和田玲子、大場君枝、中村日南、外山菜月、海野由夏

◆目的

「朝ごはん」の大切さを広く高校生の皆さんに理解してもらい、朝食作りへの取り組みを通じて欠食を減らすことを目的に高校生「朝ごはん」コンテストを継続して開催している。本年度は特に身近な存在であり、健康で長生きしている祖父母の食に注目し、「元気で長生き 祖父母の味を受け継ごう！～地元野菜たっぷり朝ごはん～」をテーマとして開催した。

◆活動方法

朝ごはんメニューは、テーマに添って考えた家族の朝食メニューであることとし、以下の条件を満たす作品を募集した。「祖父母や地域から受け継いだ料理・味付けの品が 1 品以上ある」、「お米(米粉含む)を使う」、「地元食材(特に野菜)を使う」、「野菜を120g以上使う」、「1 食あたり 450 円以内、30 分以内で作ることができる」メニューについて、指定の応募用紙で料理写真、レシピを応募してもらった。7 月 20 日(火)～9 月 17 日(金)まで作品を募集した。そして、10 月 9 日(土)に学外の審査員 2 名および学内教員 3 名による書類審査を行い、入賞 12 点と入選 51 点を選定した。

◆活動結果・考察

岐阜県内 10 校と岐阜県外 25 校(愛知、滋賀、静岡、千葉、東京、富山、長崎、奈良、広島、兵庫、三重、山口県)より応募があった。また、個人応募が 13 点あり、応募総数は昨年より 86 点増えて 349 点であった。祖父母から受け継ぐ味、料理があり、地域の食材とくに野菜をたっぷり使った作品が多くみられた。応募いただいた中には、「コロナ禍で、祖父母に会うことがなかなか叶わない中、久しぶりに電話で連絡をとり、祖母の得意料理を知った」という生徒がおり、家族について考える良いきっかけとなったというお声をいただき、主催者としても大変嬉しく感じた。

入賞者のうち、書類審査で得票数の多かった 6 作品の応募者には 11 月 6 日(土)開催の実技審査に参加してもらい、最優秀賞 1 点、健康栄養賞 1 点、アイデア朝ごはん賞 2 点、優秀賞 2 点を決定した。コロナ禍ではあったが、参加者の方には新型コロナウイルス感染症対策の徹底にご協力いただくことができ、無事、実技審査を終えることができた。

実技審査当日は、高校生の皆さんは調理中とても緊張した面持ちだったが、いずれの作品も練習の成果が存分に発揮されていた。日頃は、家庭に受け継がれる味を知ることができる機会は少ないため、審査員の先生方もとても興味深く、慎重に審査されていた。審査は、僅差で大変難航したが、表1のように各賞が決定した。

今後も、さまざまなテーマでコンテストを実施することで、欠食率が高まる年代である高校生の皆さんに、朝食について関心を持っていただけるきっかけとなるコンテストにしていきたい。

表1. 実技審査結果

最優秀賞	健康栄養賞
大石 芽生さん（常葉大学附属菊川高校 3年） ありがとう◎御前崎たっぷり夏の朝ご飯	神谷 真凜さん（岐阜県立岐阜城北高校 3年） 岐阜の食材たっぷり！思い出朝ごはん
	
アイデア朝ごはん賞	アイデア朝ごはん賞
鈴木 美麗さん（静岡県立駿河総合高校 2年） 静岡の彩りで目覚めパッチリ！パパッと朝ごはん	高橋 愛結樹さん（高岡龍谷高校 2年） 元気もりもり！共に長生き朝ごはん
	
優秀賞	優秀賞
吉野 希実さん（岐阜県立東濃実業高校 2年） 「思い出いっぱい！地元を愛する朝ごはん」	杉本 琳香さん（済美高等学校 2年） 「懐かしの祖母の味をもう一度。」
	

災害時に向けた食の備えを促すためのレシピ提案

大場君枝、丹羽桜子、後藤美希、下地星羅、玉城咲野、春永 凜

◆目的

2019年に岐阜女子大学家政学部学生482名を対象に行った調査では、災害用の食品を「何も備蓄していない」と回答した学生が約半数を占め、食の備えが十分でない現状が明らかとなった。昨今は、数十年に一度と言われる豪雨が毎年のように発生しており、洪水被害や大規模停電など、日常でもライフラインが停止することが頻発している。寮や下宿で一人暮らしをする学生が半数以上を占める本学では、非常時の食の備えが無いことは、学生の命を守る上での喫緊の課題と言える。

そこで、家政学部健康栄養学科1年生に対して、ローリングストック(災害時に備え使いながら買い足す備蓄法)に向く、常温長期保存できる安価な乾物や缶詰、菓子などを使ったレシピを提案することで、災害時に向けた食の備えを促す試みを行った。

◆活動方法

レシピは、「いつでも簡単バランスレシピ」と題して、いつ来るか分からない非常時に備えて、日常から作ってもらえることを意識して作成した。また、使用する水を最小限とするため、洗い物が出やすい生野菜は使わず、乾物や缶詰、菓子、おつまみ類を使うこととした。また、栄養面では、炭水化物だけでなく、不足しがちなたんぱく質や食物繊維が摂れることを意識した。調味料は計量の手間がかかることから使わず、食品に調味されている味を味付けに生かした。調理道具はライフラインの停止を想定し、カセットコンロを使い、ポリ袋調理やフライパン用ホイルを使ったレシピとすることで、非常時に備えると良い調理道具や消耗品についても備えを促すこととした。

通常、災害時の備えとして最低3日分の備えが必要とされることから、3日分の食材を用意し、3日分のレシピを考案した。3日分の食事を想定したレシピ集とすることで、備えると良い食品の量が具体的にイメージしてもらいやすいと考えた。

レシピは紙媒体だけでなく、気軽に作ろうと思ってもらえるようiPadやスマートフォンで動画撮影し、学生が動画編集できるアプリ「InShot」を用いて1分程度の動画レシピを作成した。7月末に健康栄養学科1年生に対して、災害時に備えた備蓄法の説明や4年生が実際に在学中に寮で停電が続いた時の経験について話をするとともに「いつでも簡単バランスレシピ」の紹介を行った。

◆活動結果・考察

2か月後(10月)のアンケートでは、食品の備蓄が「増えた」「やや増えた」と回答した学生が6割おり、災害時に備えて特に麺類や缶詰の備えが増えたとの回答が多かった。

考案した18のレシピの内、夏休みに実際作ってみたというレシピは「押麦と焼きとり缶のトマトリゾット」、「乾燥野菜とお麴入りツナバーグ」、「チョコを使った五平餅風」、「おかかチーズおにぎり」(各2・3名ずつ)であったが、作ってみた人が全体の15%と少なかった。実際に作ろうと思えるレシピとする

には、「簡単」、「普段から家にあるもので作れる」、「時短」であった方が良いという意見が多かった。今回は、食物繊維、たんぱく質が摂取できることを意識して、普段学生が購入することが少ない切り干しだいこんや高野豆腐などの乾物を多用したレシピであった。したがって、今後は、乾麺やツナ缶、レトルト食品など、1人暮らしの学生がよく購入している食品を使ったレシピを考案することで、さらにレシピを活用する人が増え、災害時に向けた食の備蓄を促すことができるのではないかと考える。



その他、岐阜女子大学
健康栄養学科 Instagram
でもレシピ動画紹介↓

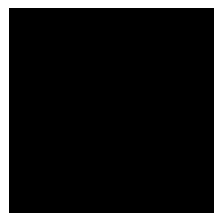


図1.健康栄養学科の紹介中のレシピ動画



図2.レシピ集のうち、実際作った人がいた料理写真

オープンキャンパスにおける小麦・卵・乳を含まない弁当の提供

大場君枝、栗本 南、酒井萌友、久湊奈菜花、屋部瞳歩、
宇留野汐里、大石さつき、佐藤朱里、御子柴音羽

◆目的

食物アレルギー児は皆と同じ学校給食を食べる機会が少ない。そこで、主食や揚げ物の衣などに含まれることが多い小麦、卵、乳を含まない弁当レシピを考案し、岐阜女子大学でのオープンキャンパスで提供を行うことで、大量調理に向くレシピ提案を目指した。

特に主食としての「米粉パン」については、昨年度の課題としてパン表面が硬いと評価されたことから、本年度は、焼成条件(温度、湿度)を検討するとともに大量調理に向く作業手順となるよう工夫した。また、給食では揚げ物の提供が多い。米粉はカリッと仕上がることから学校給食でも利用されるが、小麦に混合して使われる。米粉のみで揚げると時間が経って硬くなることから、一昨年は冷凍長芋とろろを米粉に混ぜて作った磯辺揚げを提供したが、長芋アレルギーの方が数名いた。そこで、本年度は、冷凍長芋とろろ以外で時間が経っても硬くなりにくい食材を探すこととした。

◆活動方法

4月25日に、昨年度と同じ米粉パンレシピで作成した米粉パンを含む弁当を100食提供した。その後、食材や焼成条件の検討を重ね、8月9日には、焼成温度を低温にしてパン表面の硬さを軽減した米粉パンを含む「卵・乳・小麦を使わない米粉パン&ビタミンACEたっぷりランチ」を提供した。

6月13日には、高野豆腐の唐揚げを使用した酢豚風を含む「小麦・卵・乳を含まない&肉・魚を使わないヴィーガンランチ」、7月18日は米粉とおからパウダーを使用した揚げ衣で作るイカの磯辺揚げを含む「小麦・卵・乳を含まない&食物繊維たっぷりランチ」を提供した。喫食者にアンケートによって評価していただいた。

◆活動結果・考察

米粉パンについては、4月のオープンキャンパス時、パンの硬さに関する自由記述では、約3割の方が「パン表面の硬さがかたい」と評価していた。しかし、8月のオープンキャンパスでは、温度130℃、湿度80%、25分間と低温で焼き、パン表面の焼き目を4月より薄くなるようにしたことで、パン表面が硬いと記述した方は3%にまで減少した。6月に提供した高野豆腐の唐揚げは、高野豆腐の帕さつき感を減らすため酢豚風に甘酢を絡めた。喫食者に美味しと評価され、「高野豆腐だと気付かなかった」「満腹感があつた」という意見があつた。7月に提供したイカの磯辺揚げでは、時間が経っても硬くならないよう不溶性食物繊維が多いおからパウダーを米粉に加えることとした。喫食者には美味しと好評であり、食感についても「衣がサクサクしていた」という意見があつた。

表 1. 小麦・卵・乳を含まないランチリーフレットと出来上がり写真

6月13日提供「小麦・卵・乳を含まない&肉・魚を使わないヴィーガンランチ」

小麦・卵・乳(三大アレルギー)& 肉・魚を使わないヴィーガンランチ

本日のメニュー

- ・雑穀ご飯
- ・高野豆腐の肝臓風
- ・ほうれん草のえごま和え
- ・岐阜県産大豆の食物
- ・しそわちわフルーツゼリー

22歳・65歳・1歳 1人1食 100g 4食 200g 2食 200g 2食 2食

ところでヴィーガンって何？

ヴィーガンとは動物性食品を一切摂取しない人のこと。ヴィーガン食で不足しがちな栄養素は？

不足しがちな栄養素	ヴィーガン食で不足しがちな食品	その代換
タンパク質	大豆製品、乳製品	大豆、豆乳、豆腐、豆乳、豆乳
鉄	大豆製品、乳製品	大豆、豆乳、豆腐、豆乳、豆乳
カルシウム	大豆製品、乳製品	大豆、豆乳、豆腐、豆乳、豆乳
ビタミンD	大豆製品、乳製品	大豆、豆乳、豆腐、豆乳、豆乳
ビタミンB12	大豆製品、乳製品	大豆、豆乳、豆腐、豆乳、豆乳

岐阜県産大豆 高野豆腐 高野豆腐 高野豆腐 高野豆腐 高野豆腐 高野豆腐 高野豆腐 高野豆腐 高野豆腐



7月18日提供「小麦・卵・乳を含まない&食物繊維たっぷりランチ」

[illegible]

8月9日提供「卵・乳・小麦を使わない米粉パン&ビタミンACEたっぷりランチ」

卵、乳、小麦を使わずに米粉パンとビタミンEたっぷりラン手

【本日のメニュー】

米粉パン
 ・焼きちゃん
 ・米粉がほろろコロッケ
 ・ハリッサー〜焼き野菜・エビ添え〜
 ・豆腐と人参のさっぱり和え
 ・ミニトマト
 ・みかんゼリー

エネルギー 770kcal 炭水化物 25.7g

三大アレルゲンを使わずに食品に置き換える

米粉

小麦粉
 米粉
 コーンスターチ

乳

バター
 植物油

米粉がほろろコロッケ

豆腐
 米粉
 パン粉
 米粉パン粉

卵

鶏卵
 卵
 鶏油
 卵黄粉

【使用した食材】
 ビタミンE 400mg
 ビタミンC 100mg
 ビタミンB1 100mg
 ビタミンB2 100mg
 ビタミンB6 100mg
 ビタミンK 100mg

【本日の栄養価】
 エネルギー 770kcal
 ビタミンE 180mg

【基準値(1日当たり)】
 ビタミンE 100mg
 ビタミンC 55mg



住 生 活 研 究 部 門

〔活動報告〕

山県市佐賀空き家リノベーションプロジェクト 25

森田 実沙・大崎友記子

黒見 敏丈

実習棟リノベーション工事 28

大崎友記子・黒見 敏丈

森田 実沙

第12回わたしの住まいのリフォーム・デザイン案コンテスト2020 30

大崎友記子・富士 覇王

黒見 敏丈・森田 実沙

山県市佐賀空き家リノベーションプロジェクト

森田 実沙・大崎 友記子・黒見 敏文

◆目的

深刻化する空き家問題に対応するために、空き家を改修(リノベーション)して活用を図る事業が各地で進められている。住居学専攻においてもこれまでに行政などと連携し、若い女子大生ならではのリノベーションのデザイン提案や工事に参画し、実績を積んできた。今回、空き家の再生・活用・維持管理を行っている岐阜県山県市佐賀にある空き家のオーナー様より以前の各務原市との空き家リノベーション連携事業で得たノウハウを求められたものであり、空き家をシェアハウスへ生まれ変わらせるべく行った活動について報告する。

◆活動方法

本事業は、本学住居学専攻の3年生の有志により、提示された空き家のインテリアデザイン提案を行い、特別プロジェクト実習の授業の一環として工事に携わったものである。

◆活動概要・考察

(1)対象空き家物件の現地調査:6月28日(日)

事前に提示された基本図面を踏まえ、リノベーションデザインのプラン作成のための現地調査を行った。教員2名と学生4名が周辺の環境や建物の現状を把握するとともに、細かな部分の採寸等を行った。



図1 現地調査の様子

(2)リノベーションのコンセプトの明確化とデザインの具体化:6月29日(月)～7月30日(木)

今回はオーナー様の意向により空き家の用途を女性専用のシェアハウスとした。現地調査に参加した学生が主導となってプランを取り決め、各室を分担し、リノベーションデザインを検討することとした。各部屋のコンセプト等を明確化し、そのコンセプトに基づいてリノベーションデザインの具体化を図り、3D-CADソフトや手描きのスケッチパースによりプレゼンテーションシートにまとめていった。

(3)デザイン提案の提示・打合せ:7月31日(金)

LDKのデザイン提案を2案、ランドリールーム、4つの個室の提案をそれぞれのコンセプトで1案ずつまとめた提案書をオーナー様に提示した。学生の感性に大いに共感され、概ね学生の意見を採用していただき、工事を進めることとなった。

(4)リノベーション工事

リノベーション工事は特別プロジェクト実習と連携し、3年生だけでなく、1・2年生も参画した。下記にリノベーション工事の大まかな流れを示す。

10月8日(木):既存クロス撤去、建具等取り外し

10月15日(木)、29日(木)、11月2日(月):窓枠塗装、清掃

11月9日(月):木工事

11月12日(木)、19日(木):室内建具シート貼り、清掃

12月3日(木):木工事

12月10日(木):壁パテ処理、タイル塗装

12月17日(木)、24日(木):壁パテ処理、クロス貼り

1月14日(木):クロス貼り、クッションフロア貼り

1月21日(木)、28日(木):壁パテ処理、クロス貼り

2月15日(月):壁・天井・建具塗装

春休み以降も有志による工事を行う予定であり、4月下旬完成を目指している。



図2 タイル塗装工事



図3 木工事

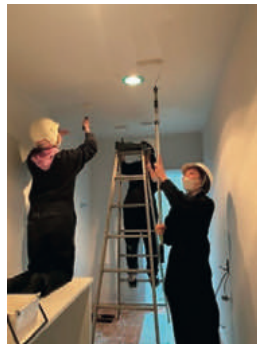


図4 壁・天井塗装工事

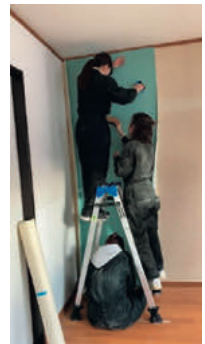
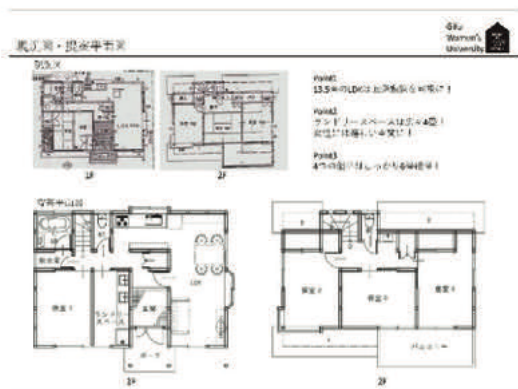


図5 クロス貼り

(5) 考察

今回のプロジェクトは、学生にとっては、現存する建物を対象としてリノベーションデザインに取り組むことができ、またそのデザインに基づいて実際にリノベーションが行われる可能性を持っているという点で、通常の授業課題とは異なり、緊張感と期待感を持ちながら真剣にデザインと施工に取り組めたと考えている。特に施工面では、リノベーション工事を進めていくうちに、実際にデザイン提案したことが思うようにいかない事態に直面した。こうした方が良いのではないかと現場を確認しながら検討を繰り返し、自分たちでより良い方法を導きだすということができた。このような学びが体験できたことは大変有意義であり、社会に出てから役立つ経験ができた。

このような機会を提供していただいたオーナー様には深く感謝申し上げる次第である。



実習棟リノベーション工事

大崎 友記子・黒見 敏丈・森田 実沙

◆目的

特別プロジェクト実習では、平成 16 年度以降、実際の建物の企画設計から建設、及び大学施設のリフォーム提案、改修工事等を 1～3 年生が協働で実施するプロジェクトを展開してきている。本プロジェクトもその一環として実施しているものである。

◆活動経緯

昨年度までの活動

令和元年 5 月：災害時浴室棟を完成した後、次に特別プロジェクト実習で取り組む内容を、在校生全員参加のコンペを実施。

令和元年 6 月：実習棟のリノベーション及び 10 号館南側の外構計画案を、大学側にプレゼンテーションを行った。

令和元年 8 月：理事会でも工事期間を含めた実習棟リノベーション案の説明を行い、特別プロジェクト実習での実施許可を得た。工期を令和元年 10 月から令和 3 年 2 月までとし、プレゼンテーション用に作成した図面とパースをもとに、見積ができる平面図、立面図等を作成。8 月末に山県市の工務店に見積依頼をし、工事全体予算の打合せをし、大学側に了承を得た。

令和元年 10 月～11 月：実習棟の南側デッキ撤去、竹垣撤去、西側・南側の外壁撤去、既設サッシの取り外し工事を行った。

令和元年 12 月～令和 2 年 1 月：室内の土間部分の床組み、フローリング部分の床組み、新設サッシ取付のための外壁調整等までを終了した。

◆活動概要・考察

令和 2 年度は 4 月から 5 月末まで、新型コロナウイルス感染症対策のため大学閉鎖措置が取られ、特別プロジェクト実習は、6 月 18 日から作業を始めることができた。コロナ対策のため、人数を制限して各学年での作業となった。

(1) 工事作業

6 月 18 日(木)～7 月 30 日(木) 昨年度からの土間部分の床組み、フローリング部分の床組み工事の続きを实践。

6 月 25 日(木)～7 月 30 日(木) 南側外壁板張り工事。

夏季休暇を経て

10 月 1 日(木)～11 月 26 日(木) 内装壁の仕上げを漆喰仕上げとするために、壁下地として胴縁、石膏ボード張をし、パテ処理作業。

10 月 1 日(木)～12 月 10 日(木) 南側、西側の外壁板張り工事。

12月3日(木)～12月24日(木) 1,2年生の全員で、漆喰塗りの左官工事に挑戦した。

12月17日(木)～12月24日(木) 屋根面と今回外壁の張替えをしない東側、北側の外壁の高圧洗浄を実施。

1月14日(木)～1月21日(木) 室内のフローリング張りを始め、今年度の作業は終了した。



図1 外壁張り作業の様子



図2 床下地作業の様子



図3 壁下地作業の様子



図4 漆喰塗り作業の様子

(3)考察

今年度はコロナ禍のため、学年ごとでの作業となった。また、マスク装着の上、最小限での会話で作業を進めた。そのため、本来特別プロジェクト実習での学修目的である、実社会の疑似体験として自主性、協調性、実行力、マナー等を養い、多様な世代・属性の方々とのコミュニケーション力の向上を図る機会として、達成されなかった部分はあったと思われる。しかし、特に1年生は初めての建設実習で、協同してのものづくりの楽しさは体験できたようだ。また、大工さんや左官屋さんの職人技を間近で見ることや、直接教えていただく機会を得たことは、これから学ぶ知識の裏付けとなることを期待したい。また2年生にとっては、最小限の会話の中でも相手の立場に立って作業を進める能力を養う機会になったのではないと思う。次年度はリノベーションの完成を目指し、実習棟の設計、建設に関わった卒業生を招待して、交流を深める機会も設けたいと考えている。

第12回わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテスト 2020

大崎 友記子・富士 霸王・黒見 敏丈・森田 実沙

◆目的

建築及びインテリア関係への進路を選択する動機づけとなることを期待すると共に、大学と高等学校等が連携し多様な学習機会を提供する一つの活動の場として『わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテスト』を開催している。このコンテストは12回目となり、次の活動方法に示すとおり技術・デザイン部門とアイデア・デザイン部門の2部門で実施している。

◆活動方法

今年度も「ペットと暮らす」住まいを対象に、「技術・デザイン部門」と「アイデア・デザイン部門」の2部門でリフォームの提案を募集した。各部門の優秀賞、奨励賞を選出し、11月7日(土)の表彰式で賞状と副賞を交付する予定であったが、コロナ禍で表彰式が中止となり、入賞者の皆さんへは郵送とさせていただいた。入賞作品は、岐阜女子大学家政学部生活科学科住居学専攻 HP に掲載すると共に、大学内にて展示を行った。

(1) 応募期間 2020年8月24日(月)～9月20日(日)

(2) 募集内容 住まい全体、あるいは住まいの一部を対象として選び、現況の様子あるいはリフォーム前の写真や図と、リフォーム後の構想を平面図(寸法記入は不要)・立面図・透視図などに表現

(3) 応募資格 高校生・短期大学生

(4) 作品応募規定

A:技術・デザイン部門

提題された住まい(本学 HP 掲載)を対象にして、ペットにも住み手にも暮らしやすい「ペットと暮らす」ためのリフォーム提案でペットと共生できる住まいであるかを評価

B:アイデア・デザイン部門

「ペットと暮らす」ための楽しい発想や斬新な図面表現、身近な実践例などを評価
(リフォーム前の状態を図面や写真等で表現してください)

(5)審査員

今田太一郎 一般社団法人 日本建築学会東海支部 岐阜支所長

独立行政法人 国立高等専門学校機構 岐阜工業高等専門学校 建築学科 准教授

津川 文江 公益社団法人 岐阜県建築士会 岐阜支部長

株式会社創建 取締役 一級建築士

大崎友記子 岐阜女子大学家政学部生活科学科住居学専攻 教授・専攻主任・一級建築士

富士 霸王 同上 教授・岐阜女子大学学生部長・家政学部長
一級建築士・岐阜県建築審査会会長

黒見 敏丈 岐阜女子大学家政学部生活科学科住居学専攻 教授

大学院生活科学研究科長・一級建築士

森田 実沙 同上 講師・一級建築士

◆活動概要・考察

今年度も昨年と同様に、ペットと暮らす住まいをテーマとしてコンテストを開催した。今年は、新型コロナウイルスの影響で多くの高等学校で休校の措置が取られたため、応募作品数もかなり少なくなるのではないかと予想された。しかし、休校中の自習課題として取り組まれた高等学校や、コンペの検索サイトから本コンテストを見つけ、個人で応募された生徒さんもみえ、例年に比べると応募作品数は少ない結果となったが、初参加校が半数以上となり、新たな連携を持つ良い機会となった。

岐阜県はもちろん、山口県、徳島県、静岡県、三重県などの高等学校から、技術・デザイン部門に 11 作品、アイデア・デザイン部門に 68 作品、合計 79 作品の応募があった。今年度も岐阜県建築士会岐阜支所様より、本コンテストの趣旨にご賛同をいただき、建築士会賞を選出した。今回もペットと共生する豊かな発想力と表現力に優れた作品が多数見受けられ、技術・デザイン部門では、建築士会賞1点、優秀賞3点、奨励賞3点、アイデア・デザイン部門では、優秀賞4点、奨励賞3点の入賞作品、両部門を通して学校賞を1校選出した。ペットと共生する空間を住居内に作り出すだけでなく、コロナ禍にあって人の過ごし方も新たなような空間づくりも見受けられ、ポストコロナの新しい生活の可能性も感じられた。次年度のテーマ内容にも反映させていきたいと考えている。

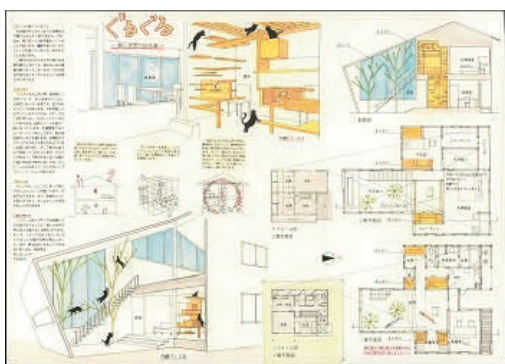


図1 建築士会賞作品

ぐるぐる一猫と空気が巡る家ー

筒井 日菜 (三重県立四日市工業高等学校)

(技術・デザイン部門)

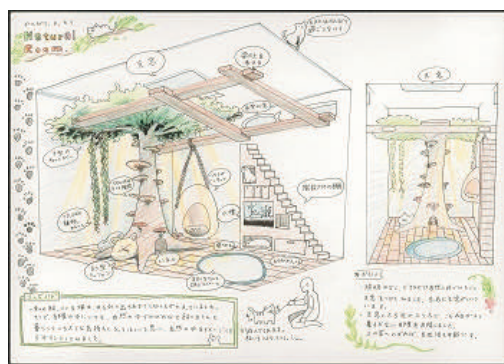


図2 優秀賞

Natural Room

加藤 初音 (岐阜県立多治見工業高等学校)

(アイデア・デザイン部門)

岐阜女子大学 衣食住生活研究センター 研究・活動レポート
第 6 号

発行年月日 令和 3 年 12 月 24 日発行

発 行 者 岐阜女子大学
〒501-2592 岐阜市太郎丸 80 番地
TEL058-229-2211

印 刷 ヨツハシ株式会社
〒501-1136 岐阜市黒野南 1 丁目 90 番地
TEL058-293-1010